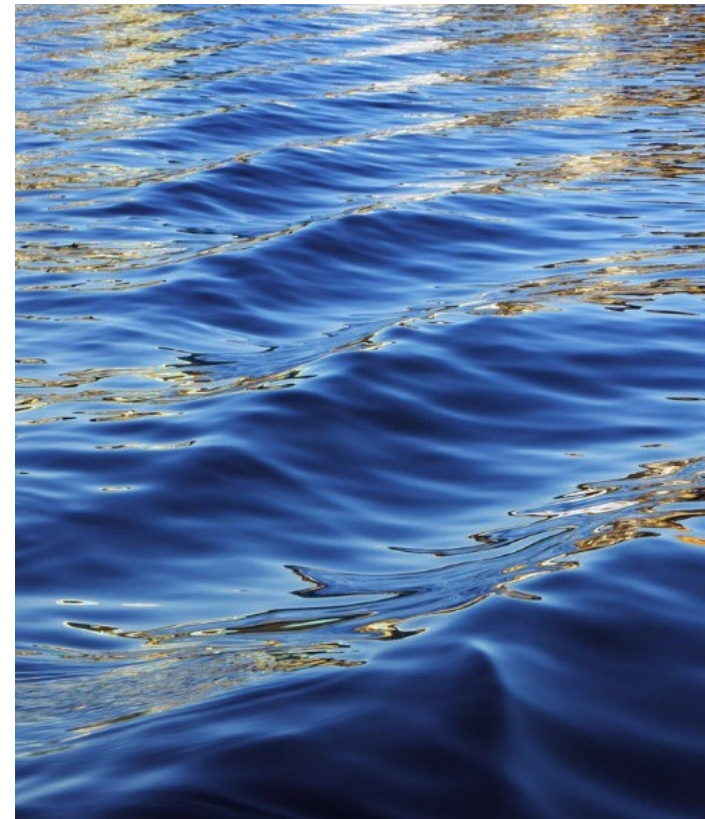




農林水産省GFVC 令和5年度第3回 全体会合コメント

GFVC代表 深川由起子（早稲田大学）



全体潮流：5兆円輸出時代に向けて

- 空前の追い風期：さらなる円安進行、コロナ緩和（インバウンド復活）
- 新たな懸念材料：地政学リスクをめぐるGFVC混乱、食糧安保懸念の常態化、農水産貿易の内政利用/日本の自己管理能力、情報発信能力
- プラットフォームの在り方
 - (1) 情報共有の体系化：官民の双方向情報共有（法制度情報は量から速度へ？、HPからSNS活用へ？）、事例蓄積、進化するQ&Aシステムを
 - (2) 投資の重要性：自国生産物の輸出振興＜包括的なVC構築へ（生産/流通/販売VCから投融資、技術戦略の強化を）
 - (3) 先進国農業における投融資（≠途上国）：官民協調は新しい形で（リスクの所在が異なる農林漁業法人、食品産業法人、支援法人のガバナンス）

「食」ビジネスのチャンス到来 ～ASEANでの取組～（インスパニア・インベストメント）

- 金城湯池市場の進化ゲーム：経験値の生きる市場（大きかったコンビニ・中食とコールドチェーンの進化←都市のカバレッジ、留学生という経験の伝達者、「日本式」の伝導（コメ+小麦文化の導入、伝統素材の融合（小豆）…

⇒所得の向上＜早い人口動態の変化（タイ、ベトナム＞インドネシア、マレーシア）：物珍しさから保健的価値へ（栄養価、提供形態・単位、簡便さの再定義？）

経験値の生きない市場：現地コンビニ、韓国系との競合/棲み分け/協調、ハラルFVCの独自進化（添加剤、調味料その他）

- 支援法人の進化：顧客開拓（地方銀、コンサル機能、情報機関（現地政府、JETROその他？）、出口戦略（現地企業、競合対策？）

Future Food Found（オイシックス、日本農業）

- スタートアップ支援：ポテンシャルの高さ（変化する価値と価値体系（コロナ引き籠もり）、食そのものの再評価
 - 医食同源思考（米国の文化変化：ミールキット（ビーガン）、宅配）
 - サイエンスとしての食（香港の完全栄養食）
- GFVCのセンター機能分業（日本）：アジアに向けた和食、洋食、欧米に向けたアジア食（双方向なのか、順次なのか、センター情報機能をどう構築するのか（規制対応：商社の食品部門との関係？））
- GFVCの中核は生産性（りんご、サツマイモ、キウイ、マスカット）：工学的アプローチの限界（ファイナンスによるリスク管理、生産者との情報共有のあり方）、輸出・国内販売の良循環をどう作るか（NZに学べるものは何か）、知財保護・技術流出対策

輸出産地づくりと輸出拡大（アグリビジネス投資育成（株））

- 農林漁業法人への投資件数：やや頭打ち？（コロナによるGFVC停滞、それとも新段階模索？←シードの鈍化？）、課題（指摘の多い担い手対策？）
- マイノリティ投資を続けることの意味？ 出口戦略？
- 輸出プラットフォーム型企业への投資：棲み分け？ バリューアップに果たせる役割？
- 輸出型移行への課題とは何か？